

梅雨時に備えた予防対策を実施しましょう!!

風水害の増える梅雨や台風の時期に向けて出来ること!!

近年梅雨前線の停滞による長雨により、近畿管内でも多くの被害が発生しています。

風雨により不安定となる河川流域や傾斜地等の工事現場はもとより、現道上の工事等においても、仮設物や保安施設等について風水害の予防に努め、現場の安全管理を適切・確実にいきましょう。

【水害対策7箇条】

排水対策は大丈夫!?

雨量が多くなると、現場内や周囲の排水設備が許容量を超え、溢れ出す。

【対策(案)】

日頃から排水設備が十分機能するよう、維持・管理を実施する。また、雨量に対して十分な能力を持った排水ポンプ等を設置する。

穴ぼこ・段差を日々点検!!

仮舗装の状態では交通開放している場合、雨水等により舗装の剥離や陥没が起こり、バイクの転倒等の事故の原因になる。

【対策(案)】

雨が降る前に舗装の見直しを行い、降雨時は、点検巡視の頻度を増やし、路面の維持に努める。

濡れた通路にご用心!!

現道工事等で設置された仮歩道は、雨水が集まりやすく、歩行者の通行が妨げられたり、濡れた覆工板で滑り易くなる。

【対策(案)】

仮歩道であっても良好に排水されるような措置を講じる。降雨時には、点検巡視の頻度を増やす。滑りやすい箇所については、歩行者マット等を敷設する。



緩んだ斜面は恐ろしい!!

工事現場の周辺や、工事による切土法面、盛土等は、降雨により緩んで崩れ易くなる。

【対策(案)】

防災上、対策が必要と考えられる箇所では、状況を点検確認し、対策を講じる。必要に応じて立入禁止や迂回等の措置を行う。

機械の設置場所に注意!!

大型機械等の設置場所が冠水したり、機械が流出したり、地盤の緩み等により機械が転倒する。

【対策(案)】

早めに適切な場所へ退避させる。適切な転倒防止措置を講ずる。

大雨の後には安全点検!!

大雨の後には、地盤の緩み、崩壊、陥没等、工事現場内に思わぬ危険が潜んでいる。

【対策(案)】

作業を再開する前には現場の安全点検を入念に実施し、異常箇所は直ちに補修する。

点検巡視は複数で!!

単独での点検巡視中に事故にあった場合、連絡が取れなくなる。

【対策(案)】

点検巡視には1人では行かない。必ず2名以上で行く。点検巡視に出かける際は、報告を忘れずに行う。

【風害対策7箇条】

保安施設にご用心!!

工事中用フェンス・看板・カラーコーン等の保安施設が、強風で転倒・飛来し、一般車・歩行者等の通行者、作業中の工事関係者などに接触する。

〔対策(案)〕

強風が予想される場合は、保安施設等をロープや土嚢などで固定する。作業の有無に関わらず現場の点検巡視等の頻度を増やす。

高所の風はよりきつい!!

地上で風が弱くても高所では強風の場合がある。

〔対策(案)〕

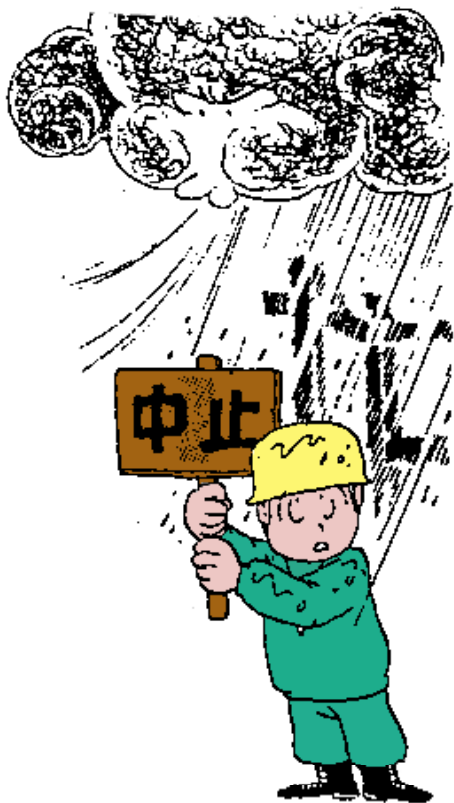
足場の上など、高所から資材や工具が飛散する恐れのあるときには、飛散防止措置を施す。安全確保のため、監視員や警戒員を配置し警戒する。状況に応じて作業を一時中断する事も重要です。

風は火花を運びます!!

強風時は溶接時の火花が飛散し、火災など思わぬ災害に発展する。

〔対策(案)〕

必要に応じて作業を中止するなど、適切な処置を講じる。



クレーンや足場は風に弱い!!

風圧を大きく受けるクレーン・杭打機等の大型機械、足場等が、強風によって転倒、逸走、崩壊する。

〔対策(案)〕

設置場所や設置状態の点検・確認を実施する。強風に十分耐えられるような保護措置を講じる。

河川・海岸は要注意!!

河川・海岸工事での通路や作業床等が、強風により転倒・倒壊する。波浪により施設等が流出する。

〔対策(案)〕

事前に十分な補強を施す。危険箇所を撤去しておく。

強風が吹いた後は・・・!!

強風の後には、作業現場の施設(足場等)にずれ・傾きが生じるなど、工事現場内に思わぬ危険が潜んでいる。

〔対策(案)〕

作業を再開する前に現場の安全点検を入念に実施し、異常箇所は直ちに補修する。

点検巡視は複数で!!

単独での点検巡視中に事故にあった場合、連絡が取れなくなる。

〔対策(案)〕

点検巡視には1人では行かない。必ず2名以上で行く。点検巡視に出かける際は、報告を忘れずに行う。

災害予防と対策を再確認し、事故防止に努めましょう!!